

〈総合診療ボックス〉

はじめての漢方診療 十五話 [DVD 付き]

三瀧忠道 著

山口哲生 (JR 東京総合病院呼吸器内科部長)

親友の三瀧忠道先生がすばらしい漢方の解説書を書いてくれた。

実に読みやすい本だ。漢方の解説書というと、陰陽虚実の証の話からはじまって西洋医学だけをやっているものにはなかなかとつきづらいものや、症状別・病名別に使える漢方薬を羅列して説明してあるものが多かったが、この本には漢方の考え方と具体的な使い方、診察の仕方が実にわかりやすく書かれてある。読みはじめると、まず入り口としての簡単な解説がある。それからすぐに「これが漢方診療の実際だ」と、どのような患者にどのように使うのが著効例をあげながら具体的に書かれてある。いかにも患者さんを大切に三瀧先生らしい切り口だ。それから漢方の考え方の話、診察の仕方と進んでくるが、べったりとすみからすみまで解説しようというよりは、白い紙に墨汁を落とすように、大切なところに焦点を当てながら、じわじわと話をひろげていく。白い頭で読み進むうちに、いつしか墨汁の広がった部分の面積が多くなり、まとまった知識となってくるのを感じることができる。そんな本である。陰陽虚実の考え方はくり返し書いてあり、そのイメー

ジがつかめたら、あとは本のどこからでも墨汁の一点として読み出すことができる。だから読み飽きない。重要な気血水の解説がうしろにまわっていてもそこだけ読むことができるし、大切な解説は繰り返しているのもよい。

DVD もいい出来だ。待望の「目で見える漢方診療 DVD」といえる。

通読して三瀧先生に感じるものは、ひとつは「本物の漢方の実践」である。「冷え性で力がない」という患者に、「とりあえず補中益気湯か、人參湯か、真武湯でも」という漢方ではない。本書で記されている「陰証期の治療」の四逆湯類の解説には迫力がある。ここまで切り込まないと治せないぞという厳しさがある。これは本物だと感じさせる。そしてふたつ目は「優しさ」である。一人ひとりの患者さんを大切にしている様子が伝わってくる。DVD で子どもの腹診をしている場面などはほのぼのとした彼らしい優しさがにじみ出ている。陰陽の解説で「藤平健先生はこうに言われていた」といい続けている律儀さも彼らしい。

少しほめすぎのきらいもあるが、本書が、とくにこれから漢方を学ぼうとする者にとって、最適の指南書であることは間違いない。■

● A5 頁 287 2005 年

定価 5,250 円 (本体 5,000 円 + 税 5%)

[ISBN 4-260-10675-9] 医学書院刊